

ゼロから 始めます

コントラクトブリッジで知力鍛えよう

世界中に愛好家がいる「トランプゲームの王様」。それがコントラクトブリッジだ。世界選手権なども盛んなこのゲームは2対2で競うのが特

徴で、推理力とパートナーシップがものをいう。頭を存分に使う快感が味わえて、外国人との交流にも役立ちそうだ。

世界中に愛好家がいるというけれど、どこが面白いの？

相手の札推理し心理戦

勝てるのは限らないのがこのゲームの醍醐味だ。

「人間が考えだした最もおもしろく最も知的なゲーム」。英国の文豪、サマセット・モームはコントラクトブリッジをこう表現した。なんだか相当難しそうだ。「奥深いのは確かですが初心者でも十分楽しめますよ」と、日本コントラクトブリッジ連盟(東京都新宿区)の普及事業部長、清水映樹さん。

ゲームは4人で行い、向かい合った2人がペアを組み対戦する。ジョーカーを除くトランプ52枚を13枚ずつ配布。持ち札を1枚ずつ順番に出し、4枚の札の強さを競う。Aが最強で以下、数が大きい順となる。自分の札が弱くてもパートナーが強い札を出せばそのペアが勝ち。18回繰り返して勝利数を争う。

ルールはそう複雑ではないのだが、このゲームではだれがどのくらい強い札を持っているか札の行方を探ることが肝心。毎回、持ち札をすべて公開しなければならぬ人が1人いて、この札が、自分をのぞく残り2人の持ち札を推理する手掛かりとなる。一方、場に出された札は勝負が決まると裏返していくため、記憶力も試される。

さらに面白さが深まるのが契約(コントラクト)のルール。各プレイヤーは持ち札の強さをみながら自分

たちのペアが13回中何回勝てるかを宣言する。その宣言の内容がまた、持ち札を予測するヒントになる。もっとも達成が難しいと思われる宣言がそのゲームの契約として確定し、宣言をしたペアは達成できなければ負けだ。例えば「9回勝つ」と宣言したのに8回しか勝てなかった場合は、勝負は8勝5敗でも、このペアは宣言を破ったから負けだ。強い札が配られても話している。



初心者教室でコントラクトブリッジを楽しむ参加者(東京都新宿区)

そろえよう

トランプ

折れてカードがわかることを避けるためプラスチック製がいい。500円程度〜。2組あるとゲームが途切れなくて便利



ビディングボックス

何組取るか「宣言」の数字を示すカード入れ。4個セットで4400円程度。試合などでは会場準備していることが多い



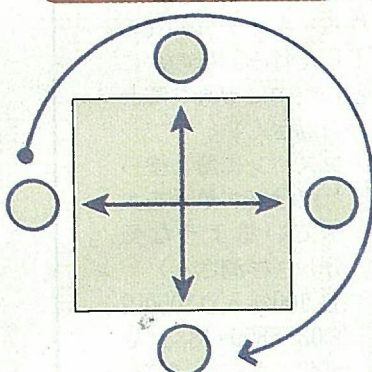
ボード

ゲームに備えてトランプを13枚ずつ4組に分けて入れる道具。手の空いた人が詰めておくやすく始められる。330円程度〜



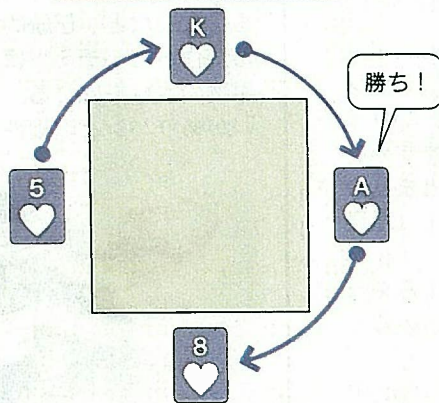
知っておこう

座り方



- 4人でテーブルを囲む
- ペアは向かい合わせ
- 順番は時計回り

基本の札の出し方



- 最初の人と同じマークの札を出す
- 数字が大きい人の勝ち(ただしAが最強)

1人参加でもペア紹介

4人も集めるのは大変そうだな！

ブリッジはトランプさえあればできるのだが、4人そろわないと始まらない。最初に覚えて置くべきルールやコツもある。まずは専門家に習うのが近道だ。

ブリッジクラブは連盟が把握するだけで全国に百近く。初心者向けの体験教室や入門講座も豊富にある。施設に行けば1人でもペアを決めて始められるし、センターの職員が相手になってくれることもある。ブリッジセンターの場合、所要時間は1回2時間前後。費用は平日で千円程度だ。四谷ブリッジセンター

(東京都新宿区)の午後7時から入門コースに参加していた森田麻紀さん(45)と高橋洋子さん(48)は友人同士。昨年12月から習い始めた。多くの他の参加者同様仕事帰りに立ち寄る。覚えての「宣言」を駆使してゲーム開始。「どうしよう?」「いや、こっちなな」と苦笑いしながら進んでいく。「パートナーの宣言の意味を推理して」。

講師の西田奈津子さんが声をかける。「今はまだ覚えるのに精いっぱい。退職後に世界大会に出るのを目標にしたい」(高橋さん) 東京・五反田のブリッジスタジオに参加する大西裕子さん(40)は夫の赴任先のシンガポールでブリッジを始めて4年。「運次第のマジシャンと違い、ブリッジはどんな札が配られても勝負がわからないのが面白い」と目を輝かす。

判断力やコミュニケーション力が養われるため教育現場でも採用され、ブリッジを単位として認める大学が増えている。ブリッジ経験のある高齢者は記憶力があがるという研究結果もあるほど、頭をフル回転させるゲーム。一生物の楽しみになること請け合いだ。(ライター 藤原 仁美)